

姓の呪い

姓の 50 音順は他者の選択に影響するのか

1210510 浜田 彪雅

高知工科大学 経済・マネジメント学群

概要

私たちが日常において何かを行う際には、生年月日順、姓の 50 音順、先着順など、様々な順番を用いる。順番の効果に関する研究は多く、Ebbinghaus (1913) によって「中間位置効果」が提唱され、最初と最後の情報は思い出されやすく（初頭効果と親近性効果）、中間に位置する情報ほど思い出されにくいことがわかっている。また、Huang (2014) では、アルファベット順の位置が前の著者の論文ほど被引用回数が多くなる傾向を明らかにしており、順番が被引用回数に影響を与える可能性があることを示している。そこで本研究は、実生活において姓の 50 音順が他者の選択に与える影響を、アンケート・実験による調査によって検討をする。調査結果から、姓の 50 音順自体が他者の選択に与える影響は見つからなかった。しかし、採用試験という特定の場面においては、初頭効果が働く可能性があり、更なる調査が必要である。

1. 序論

私たちが日常において何かを行う際には順番を決めることが多い。用いられる順番には様々な種類があり、年齢順や、生年月日順、姓の 50 音順、先着順などがよく使われる。また、じゃんけんやあみだくじで順番を決めることもある。前者は、自身で選択することが不可能な属性によって順番が決まるのに対し、後者は、確率によって決まるランダムな並び順と言える。

Asch (1946) や Norman (1976) の調査を皮切りに、何らかの刺激や学習を与える順番が、印象の残りやすさに影響を及ぼすことが、数多くの研究によって示されてきた。Ebbinghaus (1913) は複数の研究の結果をまとめ、最初または最後に提示された情報は思い出されやすく、中間の情報は思い出されにくいという「系列位置効果」を提唱した。これらの研究成果に基づき、ウェブサイトや EC サイト等では、重要な情報を最初や最後に表示させるの手法が取られること

もある。

印象の残りやすさや思い出されやすさを考慮すると、生年月日や姓の 50 音のような自身で選択することが不可能な属性に基づく順番は望ましくないのではないだろうか。

Huang (2014) は、アルファベット順の位置が前の著者の論文ほど、被引用回数が多くなる傾向を明らかにし、順番が選択のされやすさに影響を及ぼす可能性があることを示している。

受験や就職試験等では、人数多くなればなるほど、無作為に順番を決めることは大変手間がかかり、実際には出願順や受付順、姓の 50 音順などで順番が決まることが多いだろう。もし、就職試験や実生活においても順番の位置が印象の残りやすさや選択のされやすさに影響する可能性があるならば、手間をかけてでも可能な限りランダムな順番を用いるか、順番の位置によって生じるバイアスを取り除くよう順番を決めるべきではないだろうか。

このように、ある順番に着目し、順番の位置の影響を調査した論文は少なく、とりわけ日本での調査は見られない。そこで本稿は、日本でも広く一般的に用いられている姓の 50 音順が、どの程度他者からの選択のされやすさに影響を及ぼすのかについて検討する。

2 先行研究

Asch (1946) は提示する特性の種類や順序によって、その人物への印象形成に及ぼす影響を実験によって発見し、最初に記憶した印象によって後の判断や印象形成に影響を及ぼす「初頭効果」の存在を示した。同様に、Norman (1976) は最後に与えられた情報の印象が強く残り、その後の判断や印象形成に影響を及ぼす「親近性効果」を発見した。

Ebbinghaus (1913) は自身の研究の成果をまとめ、最初と最後の情報は思い出されやすく、中間に位置する情報は思い出されにくいという「系列位置効果」を示した。

以上のように、記憶のメカニズムを元に、与える刺激や学

習の順序が、印象の残りやすさや思い出されやすさに影響することが解明されてきた。追試調査も多数行われており、効果の消失や増強のメカニズムに関する理解も進んでいる。

他方、順番の位置がなんらかの影響を与えることへの調査は少ないが、Huang (2014) は、学術雑誌から論文の著者のアルファベットの位置と被引用回数を調べ、参考文献のリストが長ければ長くなるほどアルファベットの位置の早さが被引用回数に正の影響を与えることを示している。被引用回数という、研究者にとって重要な結果に、アルファベットの位置が影響を及ぼす可能性を示唆している。Huang (2014) の調査では、自然科学雑誌をサンプルとして用いており、文献数が多い社会科学の分野ではさらにこの影響が強固になるのでは、と予想される。

直接的な順番ではないが、生まれの早さに関連する調査として、川口・森 (2007) は同学年内において生まれの早さによって生じる実年齢の違い (相対年齢効果) が、どの程度成績や最終学歴に影響するのかを調査している。幼少期ほど発達の段階に差があるものの、成長につれて発達の差はなくなる。しかし、幼少期の初期体験が成績差を生み出す可能性があること指摘している。

プロ野球選手のデータを元に学歴と生まれ月の関係を分析した三田 (2014) は、生まれの早さによる正の影響を順風効果、生まれの遅さによる負の影響を逆風効果と分けて分析を行っており、大卒選手が増えるほど、選手間の生まれ月の分布が偏り小さくなることを発見した。その理由として、順風効果の消失をあげている。順風効果によって、実際よりも過大評価されてきた選手が、高校、大学と進むにつれて、ふりにかけられるというのが理由である。他方、逆風効果は消失されない可能性がある結論づけている。

生まれの早さに着目した研究も多く見られ、それは主に、幼少期の発育の早さによる初期体験によるものが大きいという結論が多く、生年月日順で何かを行うことは、これらの効果を助長する可能性があることがわかる。

以上のように、表示の順序や生まれの早さによる影響に着目した研究はよく見られるが、特定の順番に着目し、調査を行なった論文は少なく、あまり議論が進んでいない。

3. 理論と仮説

先行研究に従い、特定の順番に着目して分析を行うと、順番の位置が早いほど注目を浴びやすいことや、挑戦の数が多くなりやすいことが期待される。

本研究では、実生活でも頻繁に用いられ、試験等の順番で

も用いられる可能性の高い姓の 50 音順に着目し、調査を行う。

また、日常生活において順番の位置がどのように作用しているのかを検証した調査が少ないため、本研究では「姓の 50 音順が他者の選択に影響する」という仮説のもと分析を行う。

この仮説が支持されれば、安易に姓の 50 音順を用いず、無作為に順番を決めることの必要性を提唱する。試験や面接等の公平性を求められる場面では、ランダムに並び順を決めることが必要なのだろうか。

4. データと分析

4.1 データ

事前にクアルトリクス(Qualtrics)によって作成したアンケートを「Yahoo! クラウドソーシング」に掲載し、無作為に集まった 1,787 人の回答を元に分析を行った。

調査の内容は以下の通りである。

4.1-1 質問項目

「日々の生活で不公平な扱いを受けることがあると感じるか」、「他人と比べて目立ちにくい方であるか」、「他人から頼み事をされることが多いと感じるか」等の、不公平を感じる機会の多さや、他者から注目をされやすいかについての 5 つの質問をした (内 1 つは逆転項目)。なお、被験者には「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらとも言えない」、「どちらかと言えばそうは思わない」、「そうは思わない」の 5 件法で回答を求めるようになっている。

アンケート内容と姓の 50 音の影響を調査するため、回答者には各々の苗字の 1 文字目の回答を求めた。家庭環境や結婚等により苗字が変わった可能性もあるので、その前後の姓の 1 文字目を回答する項目も設けた。今回の調査では、苗字が変わったと回答した回答者は、変更前の苗字を用いて分析を行なっている。図 1 が 50 音別の回答者の分布である。このような 50 音別の調査は他に公表されておらず、今回集まったデータがどれほど日本人全体の分布を代表しているかは不明だが、大きな偏りはないと仮定して分析を行なう。

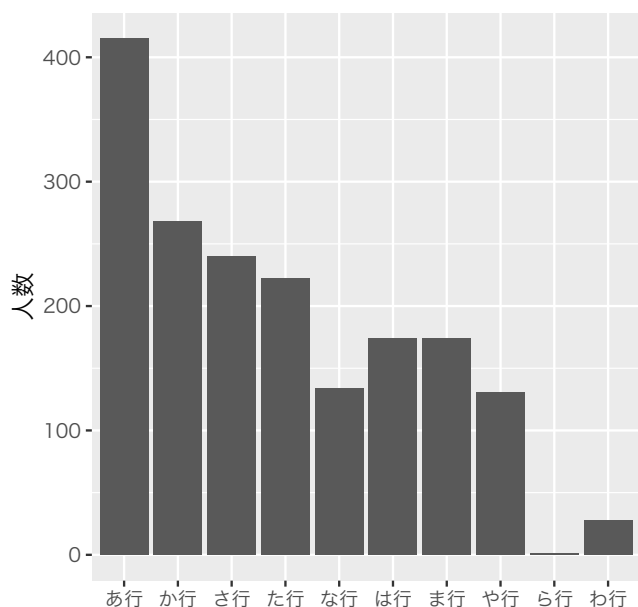


図 1: 姓の 50 音別の回答者の数

4.1-2 実験項目

続く実験項目では、回答者には面接官として、新卒採用を行なってもらう場面を設定した。仮想的に作成した人物の「氏名」、「最終学歴」、「職務経験」、「性格」、「特徴」の5つの項目からなる10人の履歴書を1人ずつ提示し、それぞれ10段階で採点をしてもらった。実験項目の最後に、印象の残りやすさを調査する目的として、「最も一緒に働きたい人」と「最も一緒に働き叩かない人」の回答を求めた。最後の質問項目では氏名の一覧のみが表示され、回答者が覚えている範囲で回答を行なうように設定している。

顔写真は、プライバシーの観点から掲載が難しいことや、Baert (2017) がfacebookのプロフィール写真の容姿が良いほど求人に応募した際の返答が多くなることを示しており、インターネット上においても容姿のバイアスがあることを示唆しているため、使用しないこととした。

表1-4に表示した履歴書を示す。

苗字は、Webサイト『名字由来net』を参考に、比較的上位の一般的かつ、読み間違いの少ないものを50音の各行から1つずつ選んだ。名前は、明治安田生命保険相互会社が独自に調査し、インターネットに掲載している『名前ランキング』を参考に、各年代から男性に多い名前と女性に多い名前、中性的な名前を選んだ。こうして選んだ苗字と名前をランダムに組み合わせて氏名を作成した。

各履歴書によって、ポジティブなイメージを持つであろうもの、ネガティブなイメージをもつであろうもの、その中間のものを作成するため、氏名以外のカテゴリーは恣意的に作成した。

学歴は、「中学校卒業」、「高等学校卒業」、「専門学校卒業」、「短大卒業」、「大学卒業」、「大学院卒業」の6つから選び、「中学校卒業」や「大学院卒業」の頻度は少なくしている。

職務経験の有無はそれぞれの特性に合わせ設定した。

性格の項目では、外交的・努力家・我慢強い等の一般的に肯定的に受け取れる項目、内向的・神経質・主体性がない等の否定的に受け取られる項目等から選択した。

特徴の項目は、一般的な趣味（釣りやキャンプ、楽器の演奏）や部活動経験、TOEICや専門資格の有無や、作業が遅い、ギャンブルが好きなどの、特にネガティブにとらえられやすい項目から構成されている。

履歴書は10人から成る4パターンを作成し、各パターンは以下のようにになっている。

1つ目のパターン（表1）は、基準として作成したパターンであり、姓の50音順で並んでいる。

2つ目のパターン（表2）は、1つ目のパターンの属性はそのままに、各々の氏名をランダムに入れ替えたもので、50音順と、ランダムな並びで差があるかを調べる目的がある。

3つ目のパターン（表3）は、1つ目のパターンの氏名はそのままに、それぞれの属性を入れ替えたものであり、どれだけ属性による影響はあるのかを調べる目的がある。

4つ目のパターン（表4）は、新たに氏名と特性を選んで、作成したパターンであり、特性の差異を小さく設定している。

回答者には、この中から、ランダムに1つのパターンが表示され、各10人の履歴書の採点を行ってもらった。

表 3: パターン 2 の履歴書

1人目

氏名	伊藤 大輝
学歴	短大卒業
職務経験	なし
性格	外交的
特徴	中高大サッカー部

2人目

氏名	木村 そら
学歴	高等学校卒業
職務経験	なし
性格	内気
特徴	映画好き

3人目

氏名	坂本 美咲
学歴	大学卒業
職務経験	なし
性格	主体性がない
特徴	TOEIC 650点

4人目

氏名	田中 大地
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	マイペース
特徴	ギャンブル好き

5人目

氏名	中村 恵
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	負けず嫌い
特徴	演劇サークルに所属

6人目

氏名	濱口 翔
学歴	大学院卒業
職務経験	あり
性格	責任感が強い
特徴	猫が好き

7人目

氏名	前田 涼
学歴	中学校卒業
職務経験	あり
性格	外交的
特徴	前職は接客業

8人目

氏名	山田 舞
学歴	高校卒業
職務経験	あり
性格	努力家
特徴	作業が遅い

9人目

氏名	林藤 優花
学歴	専門学校卒業
職務経験	あり
性格	内向的
特徴	専門資格あり

10人目

氏名	渡辺 祐希
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	協調性が高い
特徴	キャンプが趣味

1人目

氏名	林藤 優花
学歴	短大卒業
職務経験	なし
性格	外交的
特徴	中高大サッカー部

2人目

氏名	坂本 美咲
学歴	高等学校卒業
職務経験	なし
性格	内気
特徴	映画好き

3人目

氏名	前田 涼
学歴	大学卒業
職務経験	なし
性格	主体性がない
特徴	TOEIC 650点

4人目

氏名	濱口 翔
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	マイペース
特徴	ギャンブル好き

5人目

氏名	中村 恵
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	負けず嫌い
特徴	演劇サークルに所属

6人目

氏名	山田 舞
学歴	大学院卒業
職務経験	あり
性格	内向的
特徴	猫が好き

7人目

氏名	木村 そら
学歴	中学校卒業
職務経験	あり
性格	外交的
特徴	前職は接客業

8人目

氏名	伊藤 大輝
学歴	専門学校卒業
職務経験	あり
性格	内向的
特徴	専門資格あり

9人目

氏名	渡辺 祐希
学歴	高校卒業
職務経験	あり
性格	努力家
特徴	作業が遅い

10人目

氏名	田中 大地
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	協調性が高い
特徴	キャンプが趣味

表 2: パターン 3 の履歴書

1人目

氏名	伊藤 大輝
学歴	中学校卒業
職務経験	あり
性格	外交的
特徴	前職は接客業

2人目

氏名	木村 そら
学歴	高等学校卒業
職務経験	なし
性格	内気
特徴	映画好き

3人目

氏名	坂本 美咲
学歴	高等学校卒業
職務経験	あり
性格	努力家
特徴	作業が遅い

4人目

氏名	田中 大地
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	協調性が高い
特徴	キャンプが趣味

5人目

氏名	中村 恵
学歴	高等学校卒業
職務経験	なし
性格	内気
特徴	映画好き

6人目

氏名	濱口 翔
学歴	大学卒業
職務経験	なし
性格	主体性がない
特徴	TOEIC 650点

7人目

氏名	前田 涼
学歴	専門学校卒業
職務経験	あり
性格	内向的
特徴	専門資格あり

8人目

氏名	山田 舞
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	負けず嫌い
特徴	演劇サークルに所属

9人目

氏名	林藤 優花
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	マイペース
特徴	ギャンブル好き

10人目

氏名	渡辺 祐希
学歴	大学院卒業
職務経験	あり
性格	責任感が強い
特徴	猫が好き

表 4: パターン 4 の履歴書

1人目

氏名	安西 孝
学歴	短大卒業
職務経験	なし
性格	楽観的
特徴	ギターが得意

2人目

氏名	岸田 明
学歴	大学卒業
職務経験	なし
性格	謙虚
特徴	中高大と剣道部

3人目

氏名	佐々木 涼也
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	大雑把
特徴	友人が多い

4人目

氏名	近森 美玖
学歴	専門学校卒業
職務経験	あり
性格	外交的
特徴	高校でテニス部に所属

5人目

氏名	西村 碧
学歴	大学院卒業
職務経験	なし
性格	神経質
特徴	留学経験あり

6人目

氏名	浜川 翔平
学歴	短大卒業
職務経験	あり
性格	優しい
特徴	大学時代バンドを組んでいた

7人目

氏名	前田 伊吹
学歴	専門学校卒業
職務経験	あり
性格	協調性がある
特徴	インドア派

8人目

氏名	矢口 健三
学歴	大学卒業
職務経験	あり
性格	我慢強い
特徴	猫が好き

9人目

氏名	林道 光一
学歴	専門学校卒業
職務経験	なし
性格	明るい
特徴	高校時代は生徒会長

10人目

氏名	渡 千秋
学歴	大学院卒業
職務経験	なし
性格	好奇心が強い
特徴	専門資格あり

4.2 分析方法

回答者を姓の50音別にみたとき、各行において人数の差が大きいため、あ行から順に4つのグループに分け、アンケート項目の回答の偏りをグラフより調べる。

実験項目では、各パターンによって「最も一緒に働きたい」と「最も一緒に働きたくない」の選ばれ方に違いがあったのかを調べる。

4.3 分析結果

4.3.1 アンケート調査

姓の50音順別に分けた際に、回答に偏りが見られたのは、「最終学歴」と「他人から頼み事をされることが多いと感じるか」の項目であった。

図2は「最終学歴」の回答のグラフである。50音順別の位置が前半と後半では、高等学校卒業者の割合が下がっていることが分かる。順に約26%、約28%、約22%、約23%となっており、前半2グループの平均値と後半2グループの平均値を比べると、約4.5%の差がみられた。

図3は「他人から頼み事をされることが多いか」の回答である。姓の50音順の位置が後ろになるにつれ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合が増えている。「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では、最初のグループは約35%、最後のグループでは約43%となっており約8%の差がみられた。

その他の項目「年収」、「日々の生活で不公平な扱いを受けることがあると感じるか」、「学生時代、目立つ方だったか」「学生時代、授業中指名されることが多かったか」「他

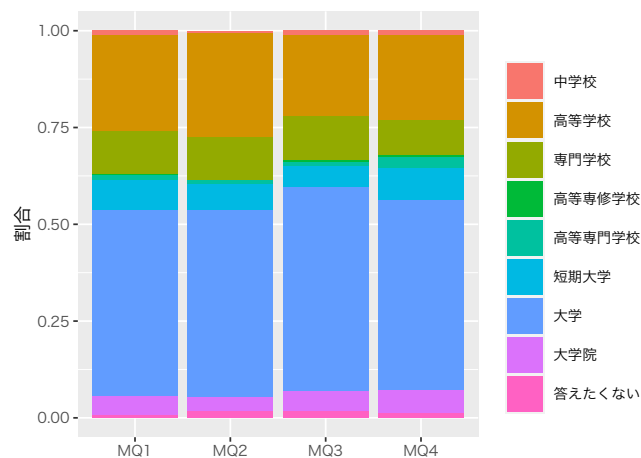


図 2: 最終学歴の分布

人と比べて目立つ方にくい方だと思うか」の項目では、姓の50音順の位置による、大きな差は見られなかった。

表5は苗字が変わった後、不利を感じるが多かったかのアンケート項目の集計である。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合は、姓の50音順の位置が前方に変わった場合と、後方になった場合で大きな差はみられなかった。

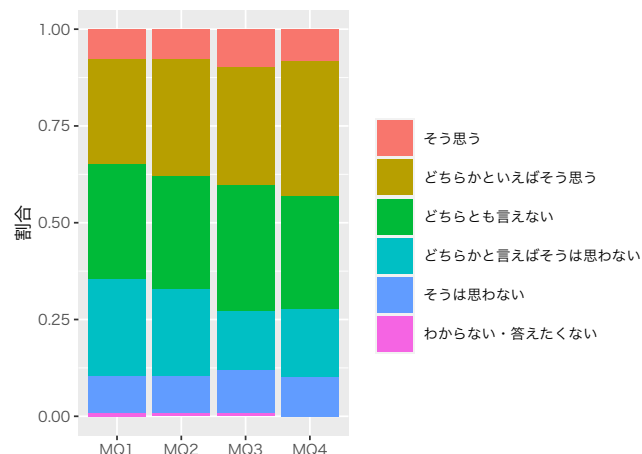


図 3: 他人から頼み事をされることが多いと感じるか

表 5: 名字が変わった後、不利を感じるが多かったか

	後方に		前方に		同じ行	
そう思う	14	8%	10	7%	1	2%
どちらかといえばそう思う	20	11%	22	15%	2	4%
どちらとも言えない	29	16%	19	13%	12	23%
どちらかと言えばそうは思わない	34	19%	30	20%	13	25%
そうは思わない	77	44%	63	43%	25	47%
わからない・答えたくない	2	1%	3	2%	0	0%

4.3.2 実験

パターン1において「最も一緒に働きたい」に選ばれたのは10人目の履歴書で、得票率は約41% (図4)、「最も一緒に働きたくない」に選ばれたのは4人目の履歴書で得票率は約35% (図5)であった。

パターン2において、「最も一緒に働きたい」に選ばれたのは10人目の履歴書で、得票率は44% (図6)、「最も一緒に働きたくない」に選ばれたのは4人目の履歴書で得票率は約37% (図7)であった。

パターン3で、「最も一緒に働きたい」に選ばれたのは10人目の履歴書で、得票率は約54% (図8)、「最も一緒に働きたくない」に選ばれたのは9人目の履歴書で得票率は約

23%、1人目の履歴書の得票率約22%と僅差（図9）であった。

パターン4で、「最も一緒に働きたい」に選ばれたのは10人目の履歴書で、得票率は約27%（図10）、「最も一緒に働きたくない」に選ばれたのは1人目の履歴書で得票率は、約31%（図11）であった。

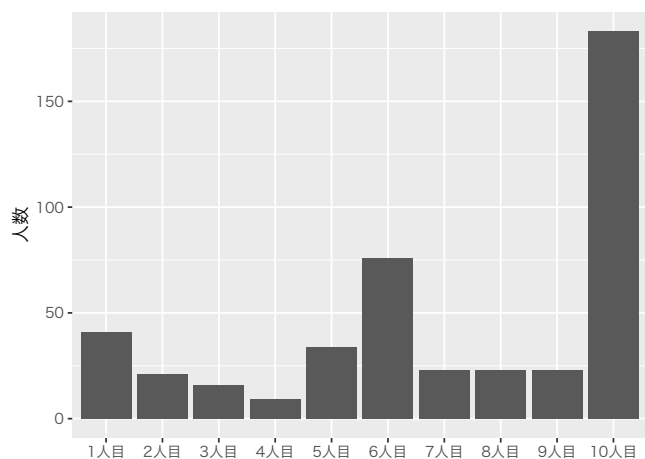


図 4: 最も一緒に働きたい（パターン1）

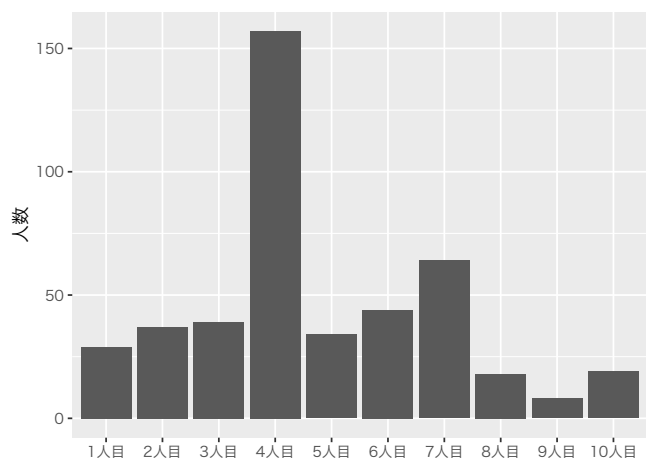


図 5: 最も一緒に働きたくない（パターン1）

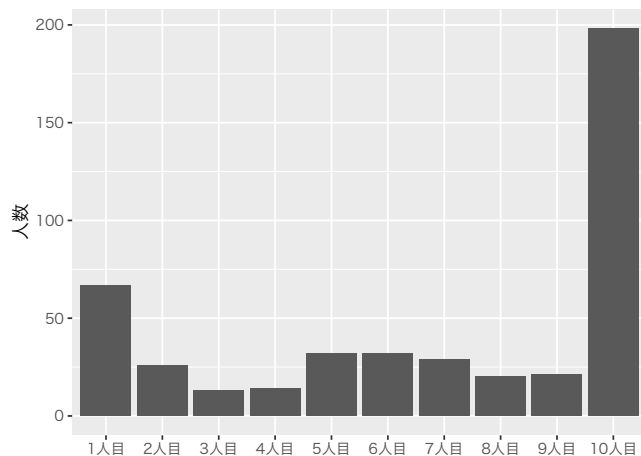


図 6: 最も一緒に働きたい（パターン2）

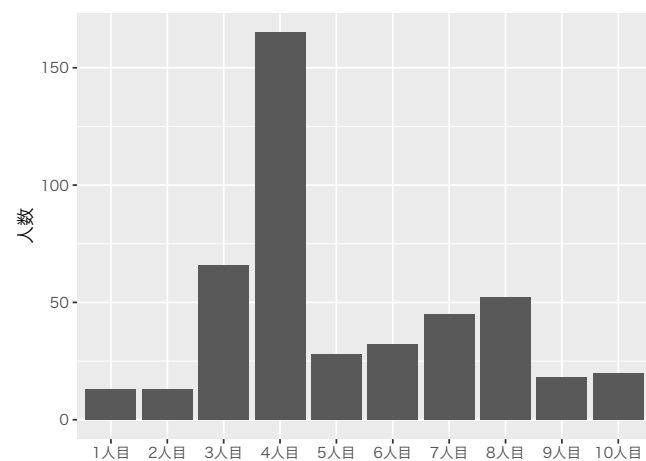


図 7: 最も一緒に働きたくない（パターン2）

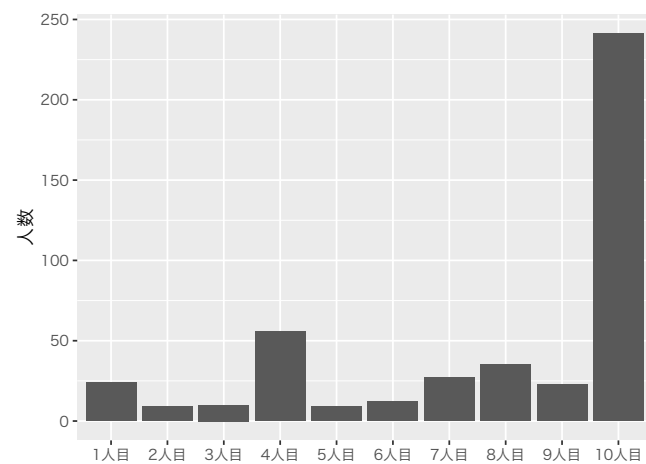


図 8: 最も一緒に働きたい（パターン3）

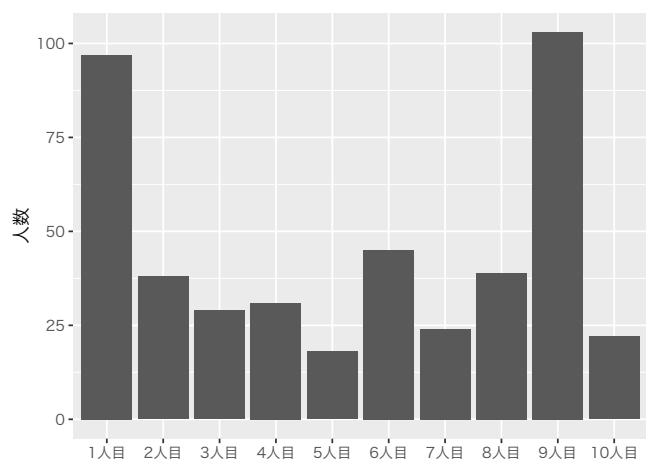


図 9: 最も一緒に働きたくない (パターン3)

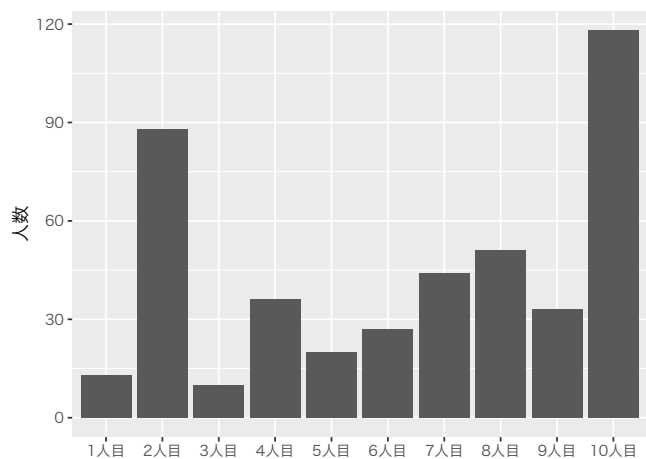


図 10: 最も一緒に働きたい (パターン4)

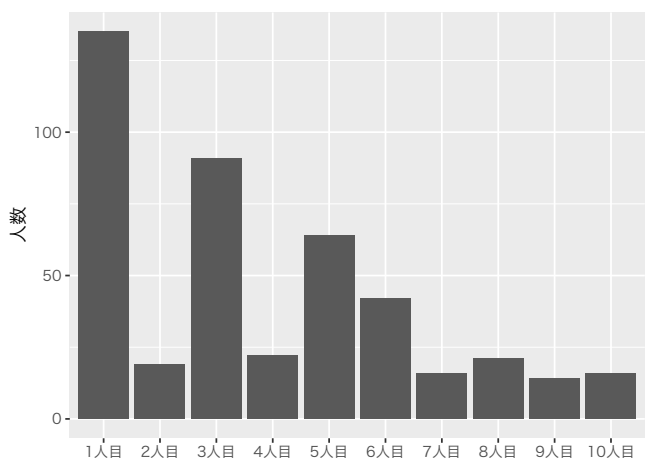


図 11: 最も一緒に働きたくない (パターン4)

5. 分析結果の考察

姓の 50 音順の位置によってアンケート結果に偏りが見られたのは「最終学歴」と「他人から頼み事をされることが多いと感じる」の 2 項目であった。偏りの理由として、小学校から高等学校の授業で行われる発表等は、姓の 50 音順（出席番号順）で行われることが多く、姓の 50 音順の位置が後ろの人は、最後まで学習を続ける必要性や、発表が後になるほど良い発表をしなければならないという義務感によって学力が上がった結果、進学を考えた等の可能性が考えられる。同様に、先に発表をしないといけない姓の 50 音順が前の位置の人は相対的に締め切りが早くなるため、後の方の人に回答を教えてもらう、といったような理由が可能性が考えられる。しかし、本研究のアンケート調査では、2つの項目と姓の 50 音順の位置による影響の因果関係を調べることは難しいと思われる。

実験項目では、「最も一緒に働きたい」に選ばれたのはいずれのパターンでも 10 人目の履歴書であった。パターン 1 の 10 人目の履歴書は、パターン 2 で氏名が変わったため、特性、または並び順で選ばれた可能性がある。パターン 3・4 では、特性が変わったものの、10 人目が選ばれている。各パターンの 10 人目の評価点数の平均は、パターン 1 が 7.1 ポイント、パターン 2 が 7.0 ポイント、パターン 3 が 7.6 ポイント、パターン 4 が 7.0 ポイントとなっており、比較的良好な特性の履歴書だと評価されており、特性によって選ばれている可能性が高い。

「最も一緒に働きたくない」はパターン 1、パターン 2 では 4 人目に提示された履歴書だが、パターン 3 では 9 人目、パターン 4 では 1 人目が選ばれた。パターン 1 で選ばれた 4 人目の履歴書は、パターン 2 で氏名が変わったが、引き続き選ばれた。パターン 3 では、特性が 9 人目に移動した結果、1 人目に僅差だが差をつけ「最も一緒に働きたくない」に選ばれた。

ここで僅差になった理由として、1 人目の履歴書の特性の「中学校卒業」が初頭効果によって印象に残り、パターン 1、2 と違い、僅差になったことが考えられる。パターン 4 では、1 人目の履歴書が選ばれているが、評価点数は 5.0 ポイントと、良い特性、悪い特性どちらともいえず、初頭効果によって印象に残った結果選ばれた可能性がある。

実験の結果から、特性が特に良いまたは悪い場合は特性によって順番の位置とはあまり関係なく選ばれ、特性の良し悪

しが明確ではない場合は、順番による初頭効果の影響が強くなると考えられる。

6. 結論

本稿では、姓の 50 音順が他者の選択に影響を与えるのかを、アンケートと実験より検討した。結論として、姓の 50 音順が他者の選択に影響するという証拠は得られなかったが、特に目立った印象がないグループにおいてのみ、初頭効果によって相手の印象に残りやすくなる可能性が示唆された。

実際の面接試験等に当てはめると、平凡な回答をする受験者が多く続く場合は、初頭効果がはたらき、選ばれ方に影響を及ぼすことが考えられるが、これについては更なる調査が必要である。

本研究には問題点がいくつか考えられる。第一に、実験項目の各履歴書の良い特性で上手くそれぞれの差を出せていない可能性と、いずれのパターンでも 10 人目に比較的良好な特性を配置してしまったため、「最も一緒に働きたい」の質問で全てのパターンで 10 人目の履歴書が選ばれるという結果につながった可能性である。第二に、本研究では順番の位置の効果を調べるため、意図的に履歴書の氏名の一覧のみを提示したが、全ての履歴書を覚えることは難しく、回答者が無作為に履歴書を選んだ可能性が考えられる。実験部分の背景設定や実験デザイン姓の改善が今後の課題である。

参考文献

・ Asch, Solomon E. (1946) Forming impressions of personality. *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, 41(3):258-290

・ Anderson, N.H., A Norman (1946) Order effects in impression formation in four classes of stimuli, *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, 69(5):467-471

・ Ebbinghaus, Hermann (1913) [2014] *Memory: A contribution to experimental psychology*. Windham Press

・ Huang, Wei (2014) Do ABCs get more citations than XYZs?, *Economic Inquiry* 53(1):773-789

・ 川口大司, 森 啓明 (2007) 誕生月と学業成績・最終学歴. 『日本労働研究雑誌』 569(12):29-42

・ 三田泰雅 (2014) 生まれ月の順風効果と逆風効果 —プロ野球選手のマルチレベル分析—, 『四日市大学総合政策学部論集』 13 巻, 1_2 号, 71-84

・ Baert, Stijn (2017) Facebook profile picture appearance affects recruiters' first hiring decisions, *New Media & Society*, 20(3):1220-1239

・ 名字由来 net, 「名字由来 net」, <<https://myoji-yurai.net/>>, (2021 年 1 月 20 日閲覧)

・ 明治安田生命保険相互会社, 「名前ランキング 2020」, <<https://www.meijiyasuda.co.jp/sp/enjoy/ranking/index.html>>, (2021 年 1 月 20 日閲覧)